

新学術領域研究

[スクラップビルド] [脳構築の時計と場] [マルチスケール脳] 合同若手シンポジウム

12月14日(金) 10:00 - 17:00 【中会議場 1-4】

■影山龍一郎・京都大学

■榎本和生・東京大学

■林(高木)朗子・群馬大学

平成28年度に開始した新学術領域研究「脳構築の時計と場」は神経幹細胞から脳が構築される分子機構の解明を、「スクラップビルド」は神経回路の機能再編を実現する分子機構の解明を目指している。一方、本年度から開始した「マルチスケール脳」は精神疾患を多階層横断的に理解することを目指している。これら3領域は研究対象や手法がお互いにオーバーラップしていることから、領域間の交流を推進することで新たなブレイクスルーがもたらされることが期待される。そこで、本シンポジウムでは、「スクラップビルド」、「脳構築の時計と場」、「マルチスケール脳」の3つの新学術領域における新進気鋭の研究者に最新の研究成果を発表していただき、異なる領域間の研究者交流や共同研究の推進を図る。

<タイムテーブル>

10:00 ~ 10:20	大脳発生におけるニューロン分化に伴う脳室面からの細胞離脱と outer radial glia 誕生を制御する共通の機構 川口 綾乃 (名古屋大学)
10:20 ~ 10:40	Non-apical Notch signaling contributes to the asymmetric cell-fate determination during mouse neurogenesis 間瀬 俊 (理化学研究所)
10:40 ~ 11:00	新生仔バレルの長期 in vivo イメージングにより明らかとなった回路洗練過程での樹状突起のスクラップ&ビルド 中沢 信吾 (国立遺伝学研究所)
11:00 ~ 11:20	統合失調症モデルのシナプス病態の形態学的解析：巨大スパインの発見 白井 福寿 (群馬大学)
11:20 ~ 11:40	視覚野における多細胞ネットワークの生後発達とその機能的役割 石川 理子 (生理学研究所)
11:40 ~ 12:00	人工シナプスコネクターによるシナプスの Scrap & Build 鈴木 邦道 (慶應義塾大学)
12:00 ~ 13:00	休 憩

- 13:00 ~ 13:20 ゲノム高次構造変動を介した脳発生制御
藤田 幸 (大阪大学)
- 13:20 ~ 13:40 双極性障害患者で見られたデノボ変異の遺伝子改変マウスによる機能解析
中村 匠 (東京大学)
- 13:40 ~ 14:00 網膜特異的 Fbxl11 ノックアウトマウスの網膜発生の解析
福島 正哉 (東京大学)
- 14:00 ~ 14:20 Threat detection aversively shifts sensory responses via Tachykinin in Drosophila
辻 真人 (東京大学)
- 14:20 ~ 14:40 アクチン足場分子の選択的スプライシングの時空間制御が担う脳梁軸索ガイダンスの
新概念
生沼 泉 (兵庫県立大学)
- 14:40 ~ 15:00 ショウジョウバエ視覚系においてシナプス可塑性を制御する神経活動依存的な Wg の
エンドサイトーシス
川村 ひなた (東京工業大学)
- 15:00 ~ 16:00 ポスターセッション
- 16:00 ~ 16:20 自閉症因子 FoxG1 による「量」依存的な神経発達制御機構
三好 悟一 (東京女子医科大学)
- 16:20 ~ 16:40 自閉症責任領域 15q11-q13 モデルマウスにおける原因遺伝子の探索
玉田 紘太 (理化学研究所)
- 16:40 ~ 17:00 反復ストレスは脳内炎症様反応を介して情動変容を誘導する
北岡 志保 (神戸大学)